



博物館だより

No. 225 2014. 1

ミニミニマイズ

鉱業博物館解説書3月3日(月)発売決定!

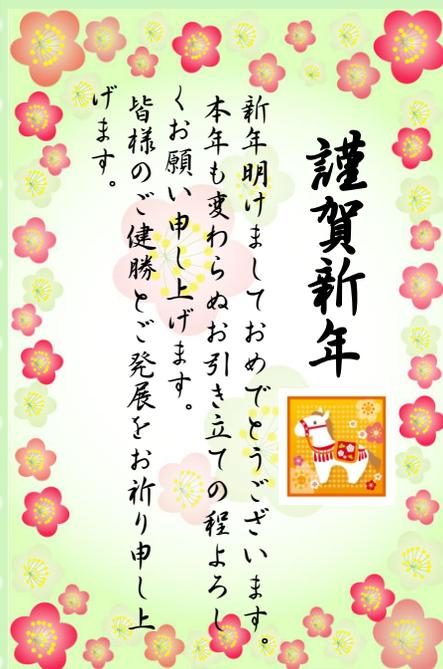


解説書表紙案の3パターン

当館歴史上初の解説書の発売日が決定しました。発売は平成26年3月3日(月)、当館ミュージアムショップで発売いたします。フルカラー版128ページ、価格は1,500円前後となります。

解説書の内容としましては、その名の通り、本館の所蔵する展示物に関する説明書となっております。我が鉱業博物館はあまり皆さんの身近に無い「鉱業」を扱っている博物館です。実は秋田県は古い時代から鉱業が盛んな地域で、より身近な存在でした。その名残は全県に残り、小坂鉱山や尾去沢鉱山は私たちもよく知る存在です。しかし今はその歴史を知らない方も多く、鉱業は皆さんの身近ではなくなっている状況にあります。そんな皆さんにより深く、わかりやすく鉱業を知ってもらいたいという思いから、作成に取りかかりました。

当館では秋田県内、日本国内はもとより世界各地から集めた貴重で高品質な標本約3,300点を展示しています。これは質・量ともに日本一の展示規模を誇ります。来館されるお客様からは「展示物の量に圧倒され見学時間が足りなかった。推薦する見所を知りたい。」「標本の由来や解説が欲しい。」とのお声をよくいただいております。この希望に応えられるよう、当館の誇る代表的な標本を中心に掲載し、秋田の生い立ちや鉱山設備などについても皆さんにわかりやすく、さらに興味を持っていただけるように制作しています。是非解説書発売が皆さんの「鉱」への入り口となり、より身近に「業(わざ)」を感じて頂きたいと願っております。



謹賀新年

新年明けましておめでとうございませう。本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願ひ申し上げます。皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

お知らせ

講堂の改修工事が始まります

2月21日(金)から
2月28日(金)まで

上記の期間、改修工事を行います。本館は通常開館いたします。騒音など皆様に大変ご迷惑をお掛けいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成26年度サイエンスボランティアを募集いたします



サイエンスボランティアのご紹介



サイエンスボランティアとは、鉱業博物館の顔として、来館者へのサポートを行っている方々のことです。豊富な知識を生かした館内案内や、イベントのお手伝い、花の植え付けなど、多岐にわたる活動を行っています。

博物館が好きで何かに関わってみたい、人と接することがしたい、手先が器用など特技を生かしたい、社会貢献・生涯学習活動がしたいなど高校生以上の方であれば性別・職業を問わずどなたでもご参加いただくことができます。

ボランティア活動のサポート体制も充実しています。当館所属の秋田大学教員・研究員が、博物館や標本のことをわかりやすく解説する講習会や、関連施設や野外に出かけての研修会などを開催しています。

得意な分野で、できる範囲で、あなたの能力を公の場で生かしてみませんか?



募集要項

活動内容

見学者への案内と説明館内整備等のサポートなど

活動期間

1年間

募集対象

高校生以上の方であればどなたでもご参加できます

募集期間

平成26年1月24日(金)
～3月28日(金)

申込先

鉱業博物館事務室(上部記載)

平成25年度博物館実習が終了しました

鉱業博物館では毎年学生向けに、学芸員資格を取得するための実習を行っています。平成25年度は28人の博物館実習生を受け入れ、約半年間にわたって実習を行ってきました。

実習生は標本の整理や管理、企画展・イベント関連の実務、来館者への館内案内実習、ミニミニマインズを作成するなど、大変多岐にわたる実習を行ってきました。特に今年度は鉱石を研磨・裁断したり、標本のラベル・キャプションを作成するなど、より深く博物館の業務に携わる機会が多い年でした。

大学の授業やサークル活動など普段の生活と兼ね合い、多忙な日々であったと思います。しかし実際に博物館が行っている業務の一部に触れたことで、博物館そして学芸員としての役割を体感できたことが、今後の彼らの成長の一助となることを期待しています。

実習生まとめより (一部抜粋)

20冊以上の専門書を図書館から借りてきては読む毎日。パネル展示にも携わり、一つの展示の裏には、あれだけ大きな苦労があったことを改めて感じた。(K.Hさん)

イベントの手伝い、展示の案内では、来館してくれた方が私の言葉にうなずいてくれたり、理解してくれているのがわかったり、笑いかけてくれたりしてくれると、私もとても嬉しく思いました。(M.Sさん)

博物館はただ資料を展示するだけでなく、展示物の管理や情報の修正、案内や新聞作成など目立つ仕事から裏方の仕事まで様々な物があり、学芸員のみではなく、その他の運営者にも求められている物が多いと感じた。(Y.Oさん)

ジュニアサイエンススクールでの子ども達の嬉しそうな様子を見て、このような機会を与えることが出来る「博物館」という施設の存在意義を改めて感じる事が出来た。今度はお客さんとして来館したい。(S.Yさん)



新秋田県立美術館との連携展「鑛のきらめき」期間中、5月に開催された第2回ワークショップに実習生4名がサポート役として参加しました。

毎年夏に行っているジュニアサイエンススクールでは、男鹿へ化石の採掘に行きました。小学生達のまとめ役・補助として2日間、がんばってくれました。



特別展「阿仁の絵巻がつむぐ150年前の銅プラント」の打合せ風景。展示のキャプションやパネルの作成など、より学芸員の仕事に近い実習を行いました。



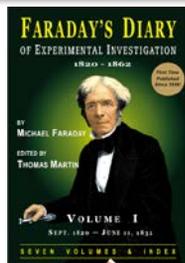
今月最後のまとめを行いました。半年間お疲れ様でした。実習の経験を生かした皆さんの活躍を願っています。

第6回市民向け開放講座

ファラデーに魅せられて(2) 電気分解の法則 ファラデーの原論文を読み解く



金児先生に質問する聴講者



講座中回覧された日記

平成26年1月23日(木) 当館3階講堂にて、第6回鉱業博物館市民向け開放講座が開催されました。講師は博物館研究員、秋田大学名誉教授の金児絃征先生でした。

今回の講演は、平成25年11月19日(火)に行われた第4回市民向け開放講座ファラデーに魅せられて(1)「ファラデーの生涯」の続編として講演されました。

ファラデーの法則として呼ばれるのは「電磁誘導の法則」と「電気分解の法則」の2つがあります。今回は1833年に発表された「電気分解の法則」の原論文の内容について詳細に講演して頂きました。

ファラデーが電気分解の法則を証明したのは1833年から1835年にかけての間でした。当時はまだ、電気を安定かつ正確に作る技術も無く、電流や電圧に関する知識もあいまいで、電気には種類があると考える学者もいた時代でした。そんな中彼は電流と電圧の関係を正確に把握し、電池など研究に関するあらゆる道具を自作してその研究を進めました。そうして第一法則「電流の化学力は正確に電気量に比例する」、第二法則「電気化学当量は一致し、化学当量に等しい」を証明していきました。

講座が終了した後も、聴講された方々から質問が飛び交い、大変充実した内容であった様子でした。

次回市民向け開放講座のお知らせ

平成25年度 第7回市民向け開放講座

男鹿半島・大瀧ジオパークの今

日時: 2月20日(木) 15:30~

講師: 白石建雄 鉱業博物館研究員
秋田大学名誉教授

会場: 鉱業博物館 3階 講堂

当日、入館・聴講ともに無料です。大学の講義を実際に聴いてみませんか? 講義を体験してみたいという方も是非、お気軽にお越し下さい。